

令和6年度 浅川中学校学校経営計画

八王子市立浅川中学校長 市場 陽一郎

はじめに

目指す生徒像は「人と人との関わりから学び合い、社会に貢献できる生徒」である。本校の校訓にもある自律と調和を意識し、人への優しさを大切に、関わって学び成長する生徒を理想としたい。より良い人間関係の構築を行い、生徒が主体的に活動する姿が見える学校づくりを行う。

教育理念、『けじめ（自律）をつけ、意欲的に学習（学び合い）に取り組み、仲間（人権意識）を認め互いに思いやる心をもてば、必ずそこに感動（気づき）が生まれる。』を忘れることなく、この「感動」を学校全体で感じ、誇りとし、更なる成長、改善への力としていく。

★校訓★ 『誠実』・『自律』・『調和』

1 教育目標

自ら、確かな学力、豊かな人間性や社会性、たくましい体を主体的・創造的に育み、その能力等を、自己実現及び社会の発展のために発揮できる生徒を育成する。

◎ 自ら学び考え行動する生徒 ・ ・ ・ ・ ・ 【今年度の重点】

- 豊かな心を持ち、思いやりのある生徒
- 心身ともに健康で、たくましく生きる生徒

2 目指す生徒像

『人と人との関わりから学び合い、社会に貢献できる生徒』

- ◎自律と調和を意識し、人への優しさを大切にする生徒
- ◎関わって学び、成長する生徒
- ◎常に当事者意識を持ち、自分事としてものごとを考える生徒

3 目指す学校像

『共に学ぶ、もっと優しい学校』地域運営学校として公立学校での使命を果たす学校

学校経営の基本方針—経営のスローガンおよび指導方針—

愛情・誠実・使命感をもって行動し、『共に学ぶ、もっと優しい学校』を目指す。

人と人とのつながりを大切に、認め合う学級、学年経営を行う。具体的な方策として「学び合い、聴き合う授業づくり」を進める。生徒一人一人の学力を保障することはもちろんであるが、互いに認め合い高め合うという人権尊重の精神を毎日の授業を通して浸透させることにより、いじめ、不登校はもとより生活指導上の問題発生を予防する。同時に、自らの課題や特性と向き合い、より前向きな気持ちで生活する「強さ」を生徒たちに求めたい。そのために教職員同士や保護者、地域関係者との交流により教職員の指導力向上や地域との連携を図る。

今年度の指導の重点

『学び合う授業づくりと、優しく自律した主体的な生徒の育成』

1. 聴き合い、学び合い、自ら成長しようとする生徒の育成のために

今年度は「話を聴く」力、姿勢を身につけさせ、コミュニケーション能力の向上や対話的な学びや共働的な学びにつなげる指導を強く意識して取り組む。

◎自律のための自己指導能力育成と温かい人間関係

- ・「みそあじは運動」を優しい行為として捉え、全教職員が共通認識を持ち指導、支援する。
「み」自律を促し規範意識が高め、誰もが安心して過ごせる優しい学校を目指す。言葉遣い、場に応じた行動もみだしなみ。
「そ」そうじは誰かのために頑張る優しい行動。4人班で責任ある行動を。
「あ」あいさつは相手を認め、思いを伝える優しい行為。良いあいさつができるように。
より良い人間関係の構築につなげ、いじめや不登校の防止に。同時に、あいさつは主体的で前向きな自分をつくる行動であることを意識させる。
「じ」時間は皆のもの。時間を守るのは周囲への優しい行為。ノーチャイム始業の徹底。
「は」話を聴くことも相手を認め、思いを受け止める優しい行為。聴き合う関係づくりを。
- ・生徒理解の上に立った、生徒の人格を大切にする温かい指導、支援を徹底する。
- ・教師が伴走者やファシリテーターとして生徒の自己決定を促し指導、支援を行う。
- ・認め合い、高め合う優しいクラスづくりを全クラスで行う。
- ・毎週水曜日5校時を「生徒理解の時間」と設定し、いじめ対策、不登校対策への取り組みを全教職員で行う。
- ・自己肯定感を高め、前向きな学校生活を送らせるために、『もっと優しく、もっと強く浅川中』を合言葉に、授業、学校行事、生徒会活動、委員会活動や部活動などあらゆる場面でリーダー育成、フォローアップを行う。生徒に達成感をもたせる。特に、生徒会活動の活性化を学校全体の主体的な活動につなげていく。
- ・体育祭、音楽祭、修学旅行、移動教室、校外学習では自律と調和を意識した教育活動となるよう計画、実施する。リーダー育成に注力する。

◎特別支援校内委員会で生徒への支援の方向性を共有確認し、丁寧に指導支援する。同時にくりやま学級との連携で支援の必要な生徒を支えていく。

2. 学び合い、高め合う魅力ある授業づくり 《「学びの共同体」の理念を基に》

◎ グループ学習を柔軟に取り入れ、協働的な魅力ある授業を展開する。

- ・教師の授業力を向上させるため、年3回の授業研究協議会を持つ。最低、年6回の研究授業（学年研修を含め）を行う。
 - ・積極的に放課後学習、補習等を行い、学力に不安をもつ生徒を支援し学習意欲を高める。
- ◎ 学び合う授業づくり、聴き合う関係づくりにより生徒の居場所がある優しいクラスをつくり、コミュニケーション能力の向上につなげる。関わる力を身につけさせ不登校やいじめを防止する。
- ◎ OJT推進委員会が中心となり、教職員のコミュニケーションスキルを向上させ、教職員同士の学び合いの風土を定着させる。

3. 地域運営学校として『地域から信頼される学校』に＜社会に貢献する意識の育成＞

◎学区に高尾山を持つ学校として、日本遺産高尾山学習に取り組む

- ・日本遺産高尾山学習に取り組み、郷土を知り、発信できる生徒を育て、故郷に愛着と誇りをもたせる。
- ・SDGs の考え方を学び、自分事として考え、行動できる生徒を育てる。
- ・高尾山学習、SDGs 学習は浅川小学校との連携を図り実施する。

◎学校運営協議会、青少年対策浅川地区委員会との連携

- ・生徒に積極的に PTA・地域行事、ボランティア活動への参加を促す。その中で地域で活躍し貢献する場や、地域の方々との関わりの中から学ぶ機会を増やす。
- ・より地域から信頼される学校を目指し、教職員の PTA・地域行事への積極的参加推進。

4. GIGA スクール構想、ICT 機器活用に挑戦

◎一人一台 PC の積極的活用

- ・教科の授業や様々な教育活動の中で PC 活用を実践する。GIGA プロジェクトチーム（GIGA チーム）を中心に学び合い、トライ＆エラーの精神で前進する。
- ・補充的学習や個別支援での PC 活用を実践する。
- ・緊急事態や不登校生徒対応での PC 活用を試行する。

◎ホームページ、デジタルサイネージの充実と発信、校務の効率化

- ・デジタルサイネージコーナーの充実による情報発信を行い、生徒の意欲を高める。
- ・学校ホームページにより、地域へ学校情報を発信し開かれた学校にする。
- ・ホーム＆スクールでの情報提供、収集による校務の効率化を図る。

5. 働き方改革を意識した教育活動・部活動の充実

- ・校務の偏りを減らす。同時に教職員の連携、OJT で効率化を図る。
- ・定時退勤日を毎月設定。職員会議日を基本とする。（個人指定ノー残業日の設定検討）
- ・休暇取得の推進。
- ・全ての部活動に複数顧問を配置し、生徒の活動の保障と教員の負担の軽減を図る。
- ・部活動を通しての「人間形成」を意識し、顧問と生徒の信頼関係のもとに活動を行う。
- ・八王子市、浅川中部活動ガイドラインを基にバランスの良い健全な部活動運営を目指す。
- ・八王子市部活動改革や地域移行へ向けた具体的な準備を進める。

6. その他

- ・教育課題研究推進校としての経験を活かし、特別支援教室拠点校としての教育実践を行う。そのことを学校全体（教職員、生徒）や巡回校の特別支援教育理解につなげ、教育的ニーズに応える。
- ・小中連携した教育活動を更に推進する。学力向上や新しい教育活動「パパズ・スタイル」などについて話し合いを継続して行う。